

論 説

現代メキシコの選挙動向と政党システムの再編（下） サリーナス政権における選挙プロセスを中心に

松 下 冽

目 次

はじめに	(3) 都市部におけるPRI支配の崩壊
第 章 制度的革命党（PRI）のコーポラティズム型選挙とその支持基盤	2. 88年選挙結果と労働組合
1. PRI内諸部門間の力関係	3. 88年選挙の歴史的意義（以上15巻1号）
(1) 部門別割当制	第 章 1991年中間選挙：PRIの回復（以下本号）
(2) 選挙区の2類型	1. サリーナス大統領の選挙戦略
2. PRI得票の全般的傾向：選挙基盤の構造的弱体化	2. PRIの回復
第 章 メキシコ社会の変容とコーポラティズム型動員メカニズムの衰退	3. カルデナスとPRDの姿勢
1. 急速な都市化の進展	第 章 1994年選挙
2. 都市におけるPRI	1. 1994年選挙に向けた各党の対応
3. 都市 民衆運動の出現・展開と88年選挙前の諸状況	2. 1994年選挙結果
第 章 1988年大統領選挙の衝撃	3. 1994年選挙の意味
1. PRIの選挙「敗北」と動員メカニズムの危機	第 章 ヘゲモニー政党制から多党制へ
(1) 背景	1. 政治再編の視点と基軸
(2) コーポラティズム型動員メカニズムの危機	2. 政党制の構造的変化へ
	3. 1997年選挙：競争性とサブ政党制
	おわりに

第 章 1991年中間選挙：PRIの回復

1. サリーナス大統領の選挙戦略

サリーナスは大統領就任後、選挙勝利を保障し、その正統性を取り戻すために選挙戦略を練り直した。その第一は、1990年に開始した一連の選挙改革による新たな選挙組織化の全体的枠組みの提供であった。まず、1990年、連邦選挙機関（Instituto Federal Electoral：IFE）と連

邦選挙裁判所 (Tribunal Federal Electoral) が設立された。これらは自立性を保証されていたが、選挙資格と組織化に関する実際の統制が大統領が失うことはなかった¹⁾。

IFEの自律性強化によって、1946年法に基づいていた旧来の基軸が実質的には少しずつ解体され、選挙プロセスの制度的枠組みの転換過程が開始された。政党制はその特徴を修正し、ヘゲモニー型モデルであることを止めた。同時に、野党は再編成の方向に向かった。しかし、新しい政党システムが形成されたのではなく、転換プロセスの途上にあった。最も決定的な変化は諸政党の社会的基盤の中で起こっていた。それは都市において明白であったが、農村部でも選挙過程の混乱が顕著となった。

1991年の選挙過程は、メキシコの実選挙活動に新たな政治的枠組みを取り込んだことによって特徴づけられた。1991年に効力を発生したメキシコ選挙法では、投票を議席に翻訳するために結びつけられた三つの異なるメカニズムが存在している。多数規定 (regla mayoritaria)、比例代表 (representación proporcional)、統治条項 (cláusula de gobernabilidad) である。多数規定は、一選挙区で多くの得票を得た政党が議席を獲得するメカニズムである (比較多数: mayoría relativa)。このメカニズムは下院における大多数を形成するのに決定的である。比例代表 (制) は全国区で、あるいは複数区 (circunscripciones plurinominales) において獲得された割合に応じての議席配分に関連している。この様式は、当初、少数政党の参加促進を目的にしてメキシコの実選挙法に導入された。

比較多数による代表は下院 (300議席) の60%を、比例代表はその40% (200議席) を占めている。1人区と複数区との特殊な結合のもとに、多数派政党が下院での絶対多数確保を保障するために、統治条項 (cláusula de gobernabilidad) と呼ばれるものが導入された。それは、比例代表議員数 (複数区) が比較多数議員数 (一人区) を超えない限り、多数派政党に適用されるというものであった²⁾。

サリーナスが行ったもう一つの重要な試みは、連邦選挙区を基盤にPRIの地域的構造を再構築することであった。これは地域的レベルにおいて党幹部が専門化できるように政府資源の配分を伴っていた。その支援のために、PRONASOLや農村直接支援プログラム (PROCAMPO) のようなプログラムが意図的に利用された³⁾。

1991年の中間選挙においては、野党との競争はわずかで、PRIは60%の歴史的水準にまでその得票を回復した。大規模な社会投資は、地域別得票でほぼ全国的均衡を確保するために、1988年にPRIがもっとも弱かった諸地域に向けられた⁴⁾。

「1988年以前、PRIの実選挙戦略は有権者の動員に責任を持っていた労働者、農民、一般の諸部門に支えられていた。しかし、サリーナスはより競争的選挙過程に直面していたことを理解し、議会での大多数獲得のための1991年選挙ならびに議会と大統領選挙を確実なものにするための1994年選挙において安定的得票を保証するため、地域構造に依拠する戦略を構想した。

この地域別運動は、一般部門から生まれた新しい組織に支えられており、経済のインフォーマル・セクターの膨大な失業者や潜在的失業者を吸収した。そして特別の状況において官僚までも利用した。かなりの点で、この新たな構造によりPRIの部門別組織は代替されるはずであったが、結局は、伝統的構造を強化することにもなった⁵⁾

2. PRIの回復

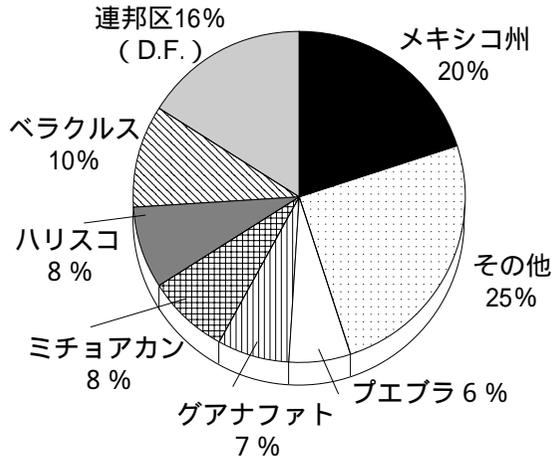
1991年中間選挙の結果は人々を驚かした。その第1の特徴は、1988年の大統領選挙と比べて投票率の大幅な増加にあった。この投票率の上昇を説明する重要な要因としては、コミュニケーション手段を通じての激しい投票促進キャンペーン、市民を投票箱に動員する非党派的仲介者の活動(教会、企業リーダーなど)、市民の実際の居住地近くに投票所を設置したこと、登録された有権者数を地域の有権者名簿に適合させたこと、などが考えられる。

第2の特徴は、PRIの得票の回復であった。もし投票率の上昇が記録されれば、PRIは重大な苦境に陥るであろうと予想された。しかし、PRIの地滑りの勝利という反対の結果が起こった⁶⁾。投票率の上昇によって、PRIはその支持票の水準を高めたのであった。1979年から1988年まで、得票率の低下を経験してきたPRIにとって、わずかの例外を除いては30年間で初めての出来事となった。ただし、ミチョアカン、グアナファト、メキシコ州、D.F.、バハカルフォルニアの五つの州ではPRIへの支持票が低かった⁷⁾。

地域的に、PRIは南東部諸州と東部諸州でより強力であった。それらは伝統的な州であり、広範な農村の社会部門が残存していた。北部の半数以上の州では、中程度の支持があった。バハカルフォルニアとともに中央諸州と西部諸州では低水準の支持で続いた。一見して、PRIが70%を越える得票を得た第一グループの諸州のおかげで回復したのである。実際、1991年のその得票の3分の1はそのグループが貢献していた⁸⁾。

1988年と比べ、1991年におけるPRIの前進を分析した時、そのパノラマは変わる。その前進の絶対的多数が集中しているのは国の中心部である(図9)。D.F.とメキシコ州はPRIの得票拡大全体の36%を貢献していた。東部では、ベラクルスとプエブラがその16%を占め、西部のハリスコ、ミチョアカン、グアナファトの総計が23%を占めた。地理的視点から、PRI得票の前進は国の中央帯諸州に集中しており、北部、南部、南東部諸州の新たな得票への貢献は25%にすぎないことが注目できる。

このことが意味することは、農村の伝統的なPRI票は不変であり、1988~91年に記録されたFDN票の変化が、かなりの程度、メキシコ市首都圏の影響力によって説明できた。FDNが3年前にその全国票の半数を獲得したのがこの地域であり、逆に、今回、FDNが支持を失ったのも同様な大都市とバハカルフォルニアにおいてであった。すなわち、激しい都市化の地域であり、今日、大規模な社会的環境の悪化を蒙っている地域である。1991年、PRDは伝統的な



(出所) Pacheco, 2000, p.281.

図9 州別PRI支持票増加：1988～1991年（増加総数468万889票）

二つの農村州でのみ票を稼いだ（ミチョアカンとゲレロ、より少ない程度ではタバスコ）。しかし、その他の諸州はPRDに背を向けた⁹⁾。

他方、PRIはその農村での存在を維持した上で、メキシコ市、とりわけその周辺都市地域で新たな選挙基盤を開拓した。バハカルフォルニアにおいて、6ポイントのわずかな前進を記録したことも指摘できる。簡単にいえば、PRIの社会的基盤は転換し始め、都市の支持と農村の支持との間の選挙上の橋を作り始めた。こうして、1988年と1991年に選挙区形態のそれぞれがPRIに与えた割合を比較すると、PRIの社会的基盤は極めて短期的には重大な修正を記録したことが明らかになる。つまり、都市票にたいするPRIの回復と農村票の特別な比重が減少したと言える。1988年、農村選挙区の得票は全国的得票総数の44%であったが、1991年にはその割合は37%に減少した。逆に、都市票は27%から33%に拡大した¹⁰⁾。

3. カルデナスとPRDの姿勢

カルデナスとサリーナスとの対立は、サリーナス政権の6年にわたる全期間に及んだ。それは、第一に、カルデナスがサリーナスを決して大統領として認めなかったからである。第二に、カルデナスとPRDは、民主主義への移行の前提条件に関して極めて厳しい立場を保持し、メキシコ政治体制の漸進的転換の考え方を拒否していたからである。加えて、カルデナスもPRDの多くの指導者も、PRIの民主的潮流の一部であった時から、ネオリベラル的観念を正面から拒否しており、両者の間にはイデオロギーおよび政治・経済的戦略の対立があった¹¹⁾。

1989年に生まれたPRDは、国家的自立性と国家の社会的責務を擁護するため、メキシコ社

会の民主主義的・民族主義的諸部分のすべてを結集する中道左派政党を望んだ。しかし、PRDはきわめて多様な左翼的諸グループが合流して結成され、他にいかなる選択肢を持っていなかったラディカル派のグループの受け皿であったし、サリーナス政権の間に急進化した。PRDはミチョアカン、イダルゴ、サンルイス・ポトシ、ゲレロ、ベラクルス、オアハカ、チアパス、タマウリパスなどの社会的差異が顕著な地域や社会的・経済的遅れの残存していた地域で、また、プエブラ、トラスカラ、モレーロス、メキシコ州のような遅れた農村地域でその影響力を強めた¹²⁾。

サリーナスの6年間に、PRDは左翼の広範な諸セクターの選挙活動を統一し、都市や農村の貧困層をこの党の期待に結びつける役割とメリットを持ったことは肯定できる。それにより、PRDはPRIの「要塞選挙区」において、この党のもっとも危険な競争相手となった。しかし、他方で、PRDは中道か、あるいは左派かという路線をめぐる内部対立を決して解決できなかった。この議論をめぐる、PRDの指導者は矛盾した立場を示していたので、党の性格は有権者の目には曖昧に映っていた。

第 章 1994年選挙

1. 1994年選挙に向けた各党の対応

1989年以降、サリーナスは議会においてPRIの絶対多数を回復し、1994年の大統領選挙での同党の候補者の勝利を確実なものにすることの重要性を理解していた。逆に、野党や市民運動は6年間にわたり中間選挙にあまり重要性を置いておらず、1994年の大統領選挙が意味するであろう重大な転換のチャンスに希望を託していた。

政府は連邦諸選挙でPRIの得票を回復するための戦略を発展させた。その基本的な三つの目標は、第1に、たとえ、あらゆるケースで得票率50%近くの水準であったとしても、全選挙区での極めて平均的な得票配分により、議会での絶対多数を支配することをねらった。第2に、下院の比例代表形式ならびに上院の構成においてもPRIの利益の最大化を保証すること、第3に、投票配分を最大限に調整することによって、1994年大統領選挙でのPRI候補者の「議論の余地のない」勝利を確保すること目標にした¹³⁾。

PRIは1992年、その中心的イデオロギーを革命的ナショナリズムから「社会自由主義」へと修正していた。「社会自由主義」を掲げることで、それまでの過剰な「ポスト革命的」体制を修正するとともに、露骨なネオリベリズム推進の衝撃を緩和しようとした。企業家が党に正式に参加する余地も開かれた。教会や開発から生まれた中間層への接近も模索され、国家を「適正な水準」に位置づけようとした¹⁴⁾。

ルイス・ドナルド・コロシオの暗殺、PRI幹事長フランシスコ・ルイス・マシエウ暗殺とい

った政治エリート内の対立, PRI体制の腐敗と衰退を背景にして,「革命家族」の「統一と忠誠」がますます深まる危機にさらされたなかで1994年選挙が行われた。PRIの得票率の減少傾向は基本的に続いていた。PRDとカルデナスは古い急進的な諸潮流を統一し,新しい左派勢力として出現した。しかし,それは以前には政治的無関心であった新しい社会諸グループから, PRIから分裂したグループや自分を代表する党派的選択肢がない社会の周辺の諸部門に至るまでが参加した「左翼中道」同盟であった。一方, PANは国の急激な変化も暴力的分裂も望まない比較的保守的な市民の表現として考えられ, 漸進的戦略がある程度, 成功した¹⁵⁾。しかし, 民主主義への合意に基づく移行を確実に導く政治勢力はまだ確実に現れていなかった。

この選挙に向けてのPRIの選挙公約は, 外国資本を引きつけるための財政プログラムの拡大と強化, グローバル化の状況での「貯蓄の奨励」, 社会的市場経済の確立, 連邦主義と立法権力ならびに司法権の強化, 行政の近代化と専門化, 主権の保障と「信用」ある経済, 公正な選挙規定を通じての国の民主化に要約できる¹⁶⁾。

一方, PANはサリーナスの正統性問題を議論し続けることは意味がないとして, 選挙を有利にするため, 新政府との関係強化をPAN指導部は決定していた。最終的には, PAN全国指導部はPRIとの交渉のために門戸をいつも開いておいたし, 恒常的な対話も存在していた。ここには, PANとサリーナスとの政策的親和性があったことが分かる。1994年選挙にむけてPANは8項目の提案をした¹⁷⁾。

一方, 1994年選挙に向けて注目すべき新しい要素が生まれた。たとえば, 民主主義への平和的移行を可能にする協定を結ぶための政府, PRI, 野党の間での対話を開始する目的での多様な市民グループも現れた。一方では, サンナンヘル・グループ (Grupo San Angel) が形成され, 他方では「市民関係に関する協定 (pacto de civilidad)」が調印されたりした。テレビ討論が実施され, 選挙監視団が形成された。しかし, これらの実現により選挙の公正が保証されたわけではない。市民同盟 (Alianza Cívica) の1万1000人の監視員は多くの極めて重大な不正が行われたことを指摘している。たとえば, PROSONALやPROCAMPOの政府資金, 奨学金, 学校への子供の登録などを使って, 都市や農村の最も貧しい社会的諸部門の買収あるいは直接的強要を通じての投票者への圧力がおこなわれたこと, PRI候補者のキャンペーン, 宣伝, ホテル代などの諸費用の政府による負担, さらに, 不平等なコミュニケーション手段の提供, とくにテレビのキャンペーンの不平等な割当, などである¹⁸⁾。

2. 1994年選挙結果

この選挙結果の特徴は, 第1に, PRI得票率の12ポイントの後退である。注目すべきことは, 同党の得票が同水準を維持, ないしは10ポイント以下の後退を示した諸州が, 厳しい党派的競争を, とくにPANとの競争を展開した州であったことである (バハカルフォルニア, チワ

ワ、グアナファト、D.F.、メキシコ州、ミチョアカンなど)。また、PRIが20%、ないしはそれ以上の大きな後退を記録した諸州は、カンペチェ、チアパス、オアハカ、ベラクルス、ヌエボ・レオン、キンタナロー、ソノラ、トラスカラである。これらの後退は当然、野党を利することになった(最初の四州はPRDに、他はPANに)¹⁹⁾。

第2に注目すべき点は、1988年にFDNの候補者として31%の得票を得たカルデナスは、1994年にはかなりの割合を失った。しかし、絶対数においてはほぼ同数の590万票を獲得したことである(表12)。

この選挙における得票率の性格を把握するために、ゴメス・タジルは1982年、1988年の大統領選挙と1994年大統領選挙との特徴を比較している。その際、PRI、PAN、左翼(1982年は左翼諸政党〔PUSM、PRT、PST、PMT〕、1988年はFDNあるいはカルデナス同盟、1994年はPRD)の得票率の組み合わせにより3グループの分類して各選挙の変化を特徴づけている。

すでに触れたように、1988年、選挙パノラマは1982年に比べ根本的に変化した。1982年、PRI支持票の全国平均は80%であり、13州では約88%であったが、88年には全国平均は57%、

表12 大統領選挙における政党別得票(1982, 1988, 1994年)

政 党	1982		1988		1994	
	得票数	%	得票数	%	得票数	%
PRI	16,141,454	68.43	9,641,329	50.36	17,341,921	48.77
PAN	3,700,045	15.68	3,267,154	17.07	9,224,519	25.94
PPS *	360,565	1.53	2,016,160	10.53	168,609	0.49
PST/ PFCRN *	342,005	1.45	2,011,541	10.51	301,249	0.87
PARM *	342,187	1.03	1,199,544	6.16	195,085	0.55
PDM	433,886	1.84	199,484	1.04	99,227	0.28
PSUM/ PMS *	821,995	3.48	683,888	3.57	-	-
PRT	416,448	1.76	80,052	0.42	-	-
PSD	48,413	0.20	-	-	-	-
PT	-	-	-	-	975,488	2.74
PVEM	-	-	-	-	330,532	0.93
PRD	-	-	-	-	5,903,987	16.60
非登録 候補者	1,053,616	4.46	45,855	0.24	18,553	0.05
無効果	28,474	0.12	-	-	1,001,046	2.82
総投票	23,592,886	100	19,145,012	100	35,556,516	100
F D N *	-	-	5,911,133	30.76	-	-

* 1988年のFDNはPPS、PMS、PFCRN、PARMを含む。

(出所) Silvia Gómez Taglo, *Las estadísticas electorales de la Reforma Política*, El colegio de México, México, 1990. *Diario de los Debates de la Cámara de Diputados*, 8 de noviembre, 1994. Gómez Tagle, 1997, p.53より引用。

5州だけが約76%を達成した。他の22州では、PRIは平均59%、カルデナスは23%、PANは17%であった。最後に、他の5州（バハ・カルフォルニア、ミチョアカン、メキシコ州の一部を含むメキシコ・シティー首都圏地区、モレロス、D.F.）では、カルデナスが50%以上を獲得した。PRIは第二位を占め31%を越え、PANは第三位でほぼ16%であった（表13）。人口比からすると、首都圏でのカルデナスの勝利は、選挙登録の40%以上を代表するので極めて重要であった。よりPRI派の州は、ヌエボ・レオン、プエブラ、タバスコ、カンペチェ、チアパスの諸州であり、PANはほとんど力が無く、カルデナスは第二位であった²⁰⁾。

1994年、最も注目すべき事実は、全州におけるPRIの同質的な得票であった（平均50～52%）。したがって、三つのグループはPANとPRDとの相違によって形成された。第一に、10州がグループ化（グループ1）される。なぜなら、野党はPAN23%とPRD（カルデナス）

表13 大統領選挙：グループ化された自治体別得票（%）
（1982, 1988, 1994年）

政 党	1982		1988		1994	
	得票率	自治体数	得票率	自治体数	得票率	自治体数
全国						
PAN	13.79		15.92		26.53	
PRI	79.72	32	57.29	32	52.37	32
左翼/ カルデナス	4.98		25.56		15.74	
グループ1						
PAN	6.49		17.05		22.87	
PRI	88.23	15	59.07	22	52.47	10
左翼/ カルデナス	4.07		22.53		18.64	
グループ2						
PAN	18.29		10.82		33.02	
PRI	75.98	13	75.96	5	52.89	17
左翼/ カルデナス	4.16		12.69		8.89	
グループ3						
PAN	26.51		16.03		11.79	
PRI	59.91	4	30.77	5	50.44	5
左翼/ カルデナス	11.04		51.53		33.22	

（出所）Silvia Gómez Tagle, Las estadísticas electorales de la Reforma Política, El Colegio de México, México, 1993. 1994年データはIFEによる提供。Gómez Tagle, 1997, p.54より引用。

表14 1994年選挙：地域別PRI, PAN, PRD得票(地域平均%)

	北部		西部		中央地域		南東部	
	1988	1994	1988	1994	1988	1994	1988	1994
PRI	61	53	47	51	34	46	66	53
PAN	23	30	22	29	20	26	8	16
PRD	15	10	22	14	43	19	24	24

北部地域：Baja California, Baja California Sur, Sonora, Sinaloa, Nayarit, Chihuahua, Durango, Coahuila, Nuevo León y Tamaulipas.

西部地域：Jalisco, Aguascalientes, Zacatecas, San Luis Potosi, Guanajuato, Michoacán y Colima.

中央地域：D.F., Estado de México, Morelos, Querétaro e Hidalgo.

南東部地域：Puebla, Tlaxcala, Veracruz, Tabasco, Campeche, Guerrero, Oaxaca, Chiapas, Quintana Roo y Yucatán.

(出所) Pacheco, 2000, p.330.

18%の間に分割される。17州の第二グループにおいて、PANは野党第二位であった(平均33%)。これらの州は、国の最も発達した地域に位置している。すなわち、中央部、北部、北西部であり、バハ・カルフォルニア半島の2州を含む。ユカタン半島はそれほど発展していないPAN派の強い地域であり、北部より農民が多い。第三のグループは、5つの州にのみ統合されている。すなわち、ミチョアカン、ゲレロ、オアハカ、ベラクルス、タバスコそしてチアパスである。そこでの選挙における第二勢力は得票33%のPRDであり、1988年選挙との関連を含めて(タバスコ、チアパス、オアハカ、ゲレロのようなPRI派の飛び地であった)重要な発展を意味した。逆に、PRDは首都圏における優位を失った。そこではPRIが復活し、PANも存在を示した²¹⁾。

次に、1988年大統領選挙との比較で、地域別特徴を簡単に押さえておこう。1988年、PRI票の崩壊は中央地域(D.F., メキシコ、ケレタロ、モレロス、イダルゴ)で激しかった。1994年、PRIの得票はほぼ50%近くに収斂するまでに低下し、こうして選挙結果の地域間相違が薄らいだ。PRIに関しては、北部地域と南東部地域でその得票を減らし、他方、西部地域ではわずかに、中央諸州では12ポイント増やした。伝統的にPRIが強い地域である南東部地域で、1994年にPRDが高い得票を獲得し、PANが8%から16%になったことは注目できる。中央諸州ではPRI票は少ない。1988年はカルデナス派の票が多く、1994年はより多党的になった。地域分析と関連して、競争が全国に広がっていること、伝統的農村地帯である南部に向けてPRDが成長したこと、一方、高い都市人口割合によって特徴づけられる諸州でPANが前進したことが確認できる(表14)。

1994年大統領選挙のPRI得票率は50.18%の結果となった。同党の得票は、1988年に達成した得票と同水準になった。それゆえ、1991年の得票の増大は中立化されたと言える。1979年以降のPRIの得票を特徴づけている傾向は、1991年の例外はあるが、低下的傾向であり、PRIの選挙的社会基盤の継続的後退である。

1988年大統領選挙まで、PRI票の農村的要素は、全国的規模でPRIによって蓄積された得票の相対的・絶対的数量のなかで決定的役割を果たしていた。この動向パターンは、都市型、混合型、農村型の諸選挙区で区別されるとしても、1979年から94年までのPRI票のなかにも示されている（図4：本論文（上）、27ページ参照）。三つの事例において、同じ傾向が続き、ただ得票水準が変化するだけである。しかし、この相違は解消してきており、時代と共に収斂する傾向にあることは注目できる²²⁾。

1994年、PRI票は300選挙区の間でより同質的な形で配分された。すなわち、1988年のようにきわめて低い得票の選挙区はないし、1982年のように投票の75%以上をもった「要塞」選挙区も記録されていない²³⁾。投票率の拡大にもかかわらず、それがPRIに直接有利になった1991年の連邦選挙と異なって、反対のことが起こった。都市ではPANが、農村地域ではPRDが投票の増加のかなりの部分を吸収したのであった²⁴⁾。

1988～91年期、PRIの大きな前進は都市選挙区で起こり、続いて混合型選挙区でも起こった。他方、農村型選挙区では事実上停滞したままであった。1991～94年期、PRIは農村型と混合型の選挙区で平均してほとんど類似した後退を示した。簡単に言うと、1991年に、PRIの都市票は増大したが、1994年には農村票が低下した。1994年の投票の増大の主要な受益者はPANであった。とくに、混合型と農村型の選挙区ではそのように言える²⁵⁾。

3. 1994年選挙の意味

以上の選挙結果を踏まえて、1994年選挙の政治的意義を再確認しておこう。第1に、投票の流動性の高さによって特徴づけられる一定の市民層の拡大が重要な役割を果たした。この結果として、1994年に、PRIの選挙基盤は修正された。すなわち、競争者を持たなかった農村地域で力を失い、混合型と都市型選挙区において1991年選挙の前進を維持した。にもかかわらず、都市においてPANの競争力の増大に直面している。同時に、PRDが農村空間に影響力を増やしている。また、近年、とくに都市における、選挙への参加の高まりは重要であった。1994年の投票の絶対的・相対的増加は野党、とくにPANに有利となった。得票の70%以上を有するPRIの伝統的な「要塞」選挙区は消えた。とはいえ、PRIの得票水準は1988年に比べて、都市では一般的に改善された。

第2に、1994年、PRDはとくにPRIが後退した都市で前進した。それは1988～91年期にFDNによって失われた票とは異なる基盤の上で起っている。言い換えれば、PRDは1991年に失った票を回復したのではなく、1994年には、PRI支配地域から追い出された新たな有権者層を獲得したのである。

PRDは新しい政党として大きな空間を広げた。94年のカルデナスの得票を88年と比較すると、絶対数では得票を失っていないが、その全国的得票率では10ポイント以上減らし、88年

に得た首都圏での優位を失った。逆に、以前にPRIに支配されていた農民地域やインディオ地域(ベラクルス、ゲレロ、オアハカ、タバスコ、チアパス)で前進を遂げた²⁶⁾。

第3に、PANは得票をかなり増大し、国の「発展」した地域でその影響力を強化した。PANの場合、1994年の前進は1991年に後退した場所とかなり結びついていた。その選挙基盤は、少なくとも領域的配分の視点からはかなり安定的である²⁷⁾。

第4に、1988年選挙過程が民主主義への移行の始まりを意味したのか、あるいはただ単に大統領制や優位政党制における一時的危機を問題にしたのか、という疑問が現れた。この問いに対し、今日、国の政治構造における不可逆的な深い転換が生み出されたことを確認できる。しかし、1991年と1994年の連邦選挙では、サリーナス政権はその得票に最大限の有効性を与える新たな地域的基盤に基づいて、PRI再建の可能性を残した。

1994年の選挙後に現れたことは、三政党(PRI, PAN, PRD)が統合されたシステムであることである。しかし、この編成で注目すべきことは、二つの二大領域に分岐されていることである。すなわち、国の北半分ではPRI対PANの二党制が支配的であり、南半分ではPRI対PRDの二党制が優位を占めている。同程度でPRI, PAN, PRDの3潮流が集中している州はどこにもない。さらに、それぞれの「要塞」選挙区はほぼ異なる州に位置していることが確認できる。PANは北部と西部に、PRIは中央部に、そしてPRDは南部にそれぞれ支配的影響力を形成している²⁸⁾。

第 章 ヘゲモニー政党制から多党制へ

1. 政治再編の視点と基軸

本章では、ヘゲモニー政党としてのPRI支配体制が崩れた後に、メキシコがいかなる政党制に移行しつつあったのかといった問題を考察する。PRI, PAN, PRDの3政党を軸とした多党制へ移行するであろうが、この3政党の関係は対等ではないし、これまで見てきたように地域的にも不均等性が存在していた。したがって、当然、三者の関係の実態を考える必要がある。そこで、まず80年代の政党制再編の過程を押さえておく。次に、1994年選挙における3政党の力関係を競争性の視点から確認しておく。そして、1994年以降の3党関係の推移を1997年選挙で簡単に考察する。この作業の中で、移行過程にある政党再編の方向性が見えてくるだけでなく、民主化への移行の特徴も確認できるであろう。

フアン・モリナル・ホルカシタス(コレヒオ・デ・メヒコの政治学教授)は、メキシコの政党配置を考える上での2つ基軸を提起している。ひとつは、左派から右派への「イデオロギー プラグマティックの軸」である。この軸は、資本主義と社会主義、自由主義と平等主義のみならず、メキシコ憲法の重要な条項(3,25,27,28,123,130条)に対する立場によっても位置づ

けられる。この基軸によれば、メキシコの（近代的）右派の支配的立場は、経済過程への国家介入の限定ないしは拒否、したがって、民間イニシアチブの優位、ネオリベラル型経済政策の支持、国内経済の国際市場への緊密な統合、外国投資の大規模な参入の推進、経済生活における規制緩和の拡大、資本-労働関係の“柔軟化”、生産的農業政策の促進、従って土地諸所有の私的様式の保護とエヒードあるいは共同体的様式の制限、等々の主張がなされる。

他方、左派の立場は、開発促進の中心的役割を国家に求める。その結果、私的イニシアチブの制限、ネオケインズ型経済政策や赤字型財政政策の承認、経済成長における公共投資の決定的役割や経済動態における国内市場と大衆的需要の役割の強調、直接外国投資への統制、公的・私的な民族資本との連携、雇用保障の充実、農業フロンティア拡大を支える農業政策、土地の所有・占有の共同体的・エヒード的様式の推進、等々の政策を掲げている²⁹⁾。

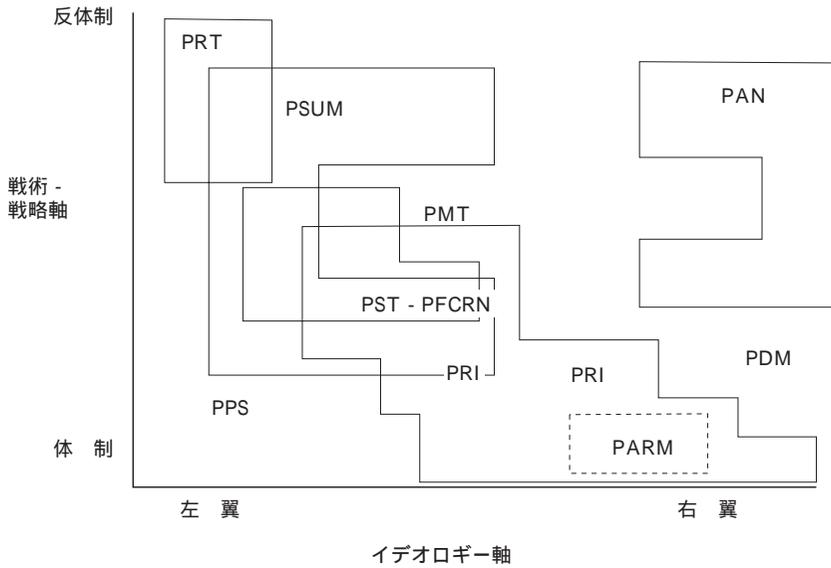
もう一つは「戦略-戦術の軸」である。それは、体制擁護派から多様な改良主義派をへて反体制派へと連なっており、権威主義-民主主義の対抗、法治国家の有効性についての議論、とりわけ、人権問題、個人保障に関連した諸問題、憲法問題（選挙制度とその尊重、権力分立、連邦主義、地方分権など）が「体制擁護派」と「反体制派」を分岐する論点となる。

以上の二つの基軸をもとに、1982年の政党配置を図式化したのが図10である。ここでの特徴は、「体制内」の改革主義政治の優位である。この優位は、メキシコの選挙制度と政党制に強固さとダイナミズムを与えており、当時の経済危機の規模は別しても、1982年には、体制が窮地を抜け出すのに十分な政治的制度化を有していたと判断することを可能にしていた。しかし、改革主義的であるが体制擁護の戦略的立場を推進していた諸党派の潮流の優位は、6年の間に加速度的に枯渇し、1987～88年までに実際上は枯渇した³⁰⁾。

1988年の政党配置が図11である。この図から、重要な二つの側面に注目することが有益である。ひとつは、PANとPMSおよびFDNの支配的諸セクターを分ける“距離”は、これら諸政党とPRIとの間の距離よりも小さいという事実である。それゆえ、それぞれの政党の間にあるイデオロギーや社会経済プログラムの巨大な相違にもかかわらず、諸政党が想定する“政治的民主化”戦略の領域における一致もたらされた。すなわち、投票を守る共通のプログラムは、唯一のものではないが、この状況のよりよい表現であった。このプログラムのなかで、これらのイデオロギーの相違の激化にもかかわらず、PRT, FDN, PMS, PANは結集した。PDMだけは独自の運命を果たすためにこの過程のわきに位置した。

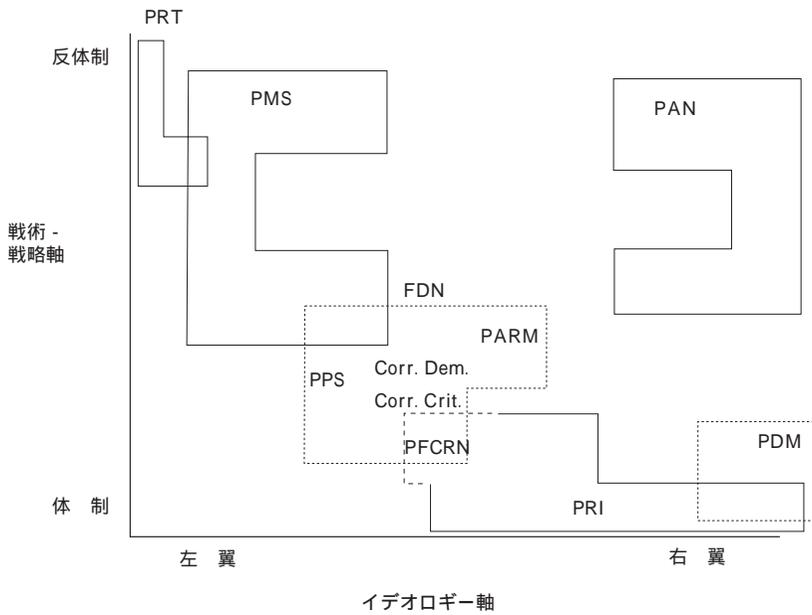
結局、メキシコの党派のスペクトルは、かなりの期間安定性を示していたその様相と比較して激しく再編成された。選挙キャンペーンとその後の論争の期間に意味をなした軸は、イデオロギ-的軸（左から右へ）ではなく、戦略的-戦術的軸（体制擁護-反体制的）から整序された³¹⁾。

他方、PRIはそのエリート内の分裂に加えて、一層の孤立化を深めた点にも注意を払う必要がある。1946年の設立以来、PRIは大統領選挙において自分の党の候補者を支持する一定の同



(出所) Molirar Horcasitas, 1991. p.184.

図10 政党配置(1982年)



(出所) Molirar Horcasitas, 1991. p.199.

図11 政党配置(1988年)

盟政党をいつも持っていた。ミゲル・アレマン (Miguel Alemán) はPRI 以外に 4 政党の候補者であった。ルイス・コルティネス (Ruiz Cortínez) はPRI 以外に 1 政党の、ロペス・マテオス (López Mateos) は 3 政党の、ディアス・オルダス (Díaz Ordaz), エチェベリリア (Echeverría), ロペス・ポルティリヨ (López Poltillo), デラ・マドリ (De la Madrid) はPRI の他に 2 政党の候補者であった。カルロス・サリーナスは他の公党の推薦を受けなかった唯一の候補であった。このような状況が生まれた脈絡は、事実上、PRI にとっては選挙前の政治的敗北であったし、メキシコの民主化を権力が受け入れるよう圧力をかけていた諸政党にとっては、選挙前の政治的勝利であった。有権者が動員されなかった場合でも、政府のエリートと野党との同意の決裂、そして党派の再編の発生は、選挙実施以前から 1988 年選挙の正統性を無くしていたし、それゆえヘゲモニー政党制の生存可能性の縮小であった³²⁾。

2. 政党制の構造的変化へ

1994 年、政治状況の分解、PRI 農村票の後退、選挙参加の拡大、都市における野党の前進は政党制の社会的選挙基盤の再編過程を促進し、都市における PRI と PAN との対立に向けての争いの極を移動した。にもかかわらず、PAN の基本的には都市的かつ地域的存在ゆえに、そして PRD の農村的性格とその脆弱性ゆえに、以前のヘゲモニー政党制は、政党間競争における様式の変わりやすいモザイクにより都市で起こっている。その安定化と事実上の再編はこの時点ではもたらされていない。

それゆえ、政党間の競争の実態、政党制の構造変化を各都市レベルで検討することは重要である。パチェコ・メンデスは都市における選挙行動を分析し、政党制の構造変化を考察している。彼は、1990 年センサスを基礎に人口規模の大きな 200 の自治体の選挙資料と人口資料を利用している。とりわけ、その中から 160 の大きな都市を分析対象として取り上げている。対象として選ばれたグループは、メキシコ全国の全 2,402 自治体の 8.3% を構成し、そこには総人口 8,114 万 922 人のうち 4,955 万 7,725 人が集中していた (1990 年センサス)。この割合は総人口のほぼ 3 分の 2 (61.1%) にあたる。1988 年、全国有効投票の 63.7% が、1944 年は 64.5% が記録された。これらの資料は有権者の多数が都市に住んでいることを示している³³⁾。

その結果として、彼の結論を要約すると次のようになる。

1988 年、1991 年、1994 年選挙の特徴は、表 15 に示されている。1988 年には、多くの事例は、PRD の存在がカテゴリーの中にどのように集中していたかを示している³⁴⁾。すなわち、PRI-(PRD), BIP-PRD, PRD である。1991 年には多くの特徴は PRI である。すなわち、PRI-(PAN), PRI-(PRD) である。1994 年の選挙では PRI と PAN との争いが目立った。すなわち、plural-PRI, BIP-PAN, PRI-(PAN) である。メキシコの諸都市における政党制の編成を示す配置は数年前から変化した。1988 年、1991 年、1994 年における政党制の編成の変化は競争の極の移動を例

表 15 政党間競争の特徴(1988～1994年)

政党間競争の特徴	1988	1991	1994
PAN	9	6	5
BIP-PAN	11	22	43
PLURAL-PRI	15	19	70
PRI-(PAN)	13	84	34
PRI-(PRD)	51	67	23
BIP-PRD	51	1	21
PRD	50	1	4
合 計(自治体数)	200	200	200

(出所) Pacheco, 2000, p.360.

証している。1988年の大統領選挙においては主要な対立はPRIとFDNとの間にあった。それゆえ、“PRI-(PRD)”、“BIP-PRD”、“PRD”型が際だった。1991年の中間選挙ではPRIが優位な立場を占めている二つの型が目立った。1994年大統領選挙では、競争はPRIとPANが対立する型へと移行した。さらに、多元主義への傾向を伴いPRIの影響力ある地域が明らかに分岐した。選挙の揺れは1988～1994年の時期の趨勢である。そして、全国的規模でよりも地方レベルで認められた政党制の不安定さの形跡が明らかになる。ここで、本質的なことは、PRIの選挙基盤の領域的配分は1988～94年期に変わったことである³⁵⁾。

3. 1997年選挙：競争性とサブ政党制

サリーナス政権期に、メキシコの政党制は衰退しつつあるPRIを軸にしてPANおよびPRDの3政党が様々な対抗関係を発展させながら編成される過程を進めてきた。しかも、選挙区により違った政党配置があり、各選挙区もそこでの競争の内容とレベルによる違いが見られる。

パチェコは上に紹介した選挙における政党間配置の類型を発展させ、サブ政党制と政党間の競争性レベルを組み合わせて新たな選挙区分類を試みている。彼によると、まず、300の1人区の間には、実際には異なる政党による六つの違った勢力配置がある。すなわち、言い換えると、六つの異なるサブ政党制がある。その第1は、今だPRIがヘゲモニー的位置を保持している“PRI優位”選挙区グループである。第2は、PRIがまだかなりの優勢を保持しているが、PANやPRDに初期的な発展の大きな空間を残しているためその優勢は少なくなっている二つの選挙区グループで、“PRI-(PAN)”グループと“PRI-(PRD)”グループである。第3に、PANとPRDが同時にPRIの得票に近づいている“PRI-Plural”グループである。そして最後に、一方でPRIとPANの間で、他方でPRIとPRDの間で明確は二党間競争をしている“BIP-PRI-PRD”および“BIP-PRI-PAN”と呼べるグループがある³⁶⁾。

次に、政党間の競争性のレベルは均一ではなく、様々な選挙区で異なって配分されている。

それゆえ、パチェコは分析の結果として五つのグループに分類している。まず、PANとPRDの得票がPRIの得票を超える“野党”(選挙区)、次に、PRI得票率との差異が10%以下の“極めて競争的”(選挙区)、第3に、その差異が10~20%にある場合の“競争的”(選挙区)、第4に、その差異が20~30%の場合の“セミ競争的”(選挙区)、そして最後に、その差異が30%以上の場合である“非競争的”(選挙区)、の五つである³⁷⁾。

以上の二つの視点(サブ政党制と競争性)から新たな選挙区を分類し、選挙区の競争性のレベルに関連した各政党の全国得票について比較している。その結果は次のことを示している。PRIは“セミ競争的”選挙区と“非競争的”選挙区でその得票の半数以上を獲得している。PANは“競争的”および“極めて競争的”な選挙区でその得票の半数以上を確保している。そして、PRDは“競争的”選挙区でその得票の3分の1を得ている。このことは、次のことを意味している。すなわち、“非競争的”および“セミ競争的”選挙区が156あり、そこでは、野党がPRIに勝つことを想像することは難しい。1994年、PRIはそれらの選挙区で、50%の得票のうち27%を集めることができた³⁸⁾。

PRIが有利な156選挙区は大部分、農村型あるいは混合型選挙区であり、わずか36選挙区だけが都市型あるいは大都市型の選挙区である。このデータから、多かれ少なかれ実際のPRI票の主要な要塞の位置に注目する。こうして公然たる競争空間は残りの144選挙区となる。それは大部分都市型と大都市型の選挙区である。この意味で、新たな選挙区割(distribución)は、多くの都市型選挙区配置を促進したため、潜在的に競争を進める空間を創出したが、それはPANに有利な結果となった³⁹⁾。

1977年の議会選挙において、PRIは1994年との比較で、投票数をほぼ560万票失った。同様に、PANは約100万票を失った。他方、PRDは、全国的投票率が76%から58%に下がったにもかかわらず、1994年の得票に200万票上乗せした。PRIはその歴史上始めて絶対多数を達成できず、その単純多数は投票総数の39.1%に減少した。一方、PANは26.6%、PRDは25.7%を獲得した⁴⁰⁾。

1977年以降、メキシコの政党制の配置は、ますます主要政党の競争関係とその特徴を考慮に入れることが不可欠になった。その競争関係は地域的に激しくなっている。しかし、それは地方的サブシステムあるいは編成類型を持っており、そこでは二党間競争、あるいはむしろ他の2政党にたいする他の政党の優位が広がっている。厳密な意味で、三党間の効果的な競争のダイナミズムは記録されていない。このことは、これら三政党における選挙での得票結果による力の配置状況を地域(州および選挙区)別にグループ化したときに明確に観察される(表16)。

地域的割当の視点からこれらの政党編成類型(地図1)を分析すると、選挙行動の類似した多くの州によって、諸地域を区分することができる。北部と太平洋-北部傾斜線では、PRIとPANの競争が広がっており、そこでは二つの類型が区分できる。ひとつは(グループA)は

表16 州別サブ政党制(1997年)

州	PRI %	PAN %	PRD %
グループA			
Guanajuato	34	43	13
Jalisco	36	45	12
Baja California	36	43	13
Querétaro	37	45	9
Colima	37	39	20
Nuevo León	40	49	3
Chihuahua	42	41	10
Aguascalientes	42	36	13
San Luis Potosi	44	38	11
Yucatán	51	38	7
グループ平均	40	42	11
グループB			
Sonora	38	31	28
Durango	38	24	11
Sinaloa	43	30	23
Coahuila	49	30	14
Puebla	49	26	18
Baja California Sur	50	19	12
Zacatecas	50	26	14
Nayarit	51	23	21
グループ平均	46	26	18
グループC			
Oaxaca	50	13	31
Chiapas	51	13	30
Hidalgo	50	16	27
Tamaulipas	48	19	27
Tlaxcala	43	20	24
Veracruz	44	21	27
Quintana Roo	47	23	24
グループ平均	48	18	27
グループD			
Campeche	47	8	36
Tabasco	52	5	41
Guerrero	46	6	43
グループ平均	48	6	40
グループE			
México	35	20	34
Distrito Federal (D.F.)	24	18	45
Michoacán	36	18	40

Morelos	36	16	40
グループ平均	33	18	40
全体平均	43	26	23

(出所) Pacheco, 2000, pp.444-445.

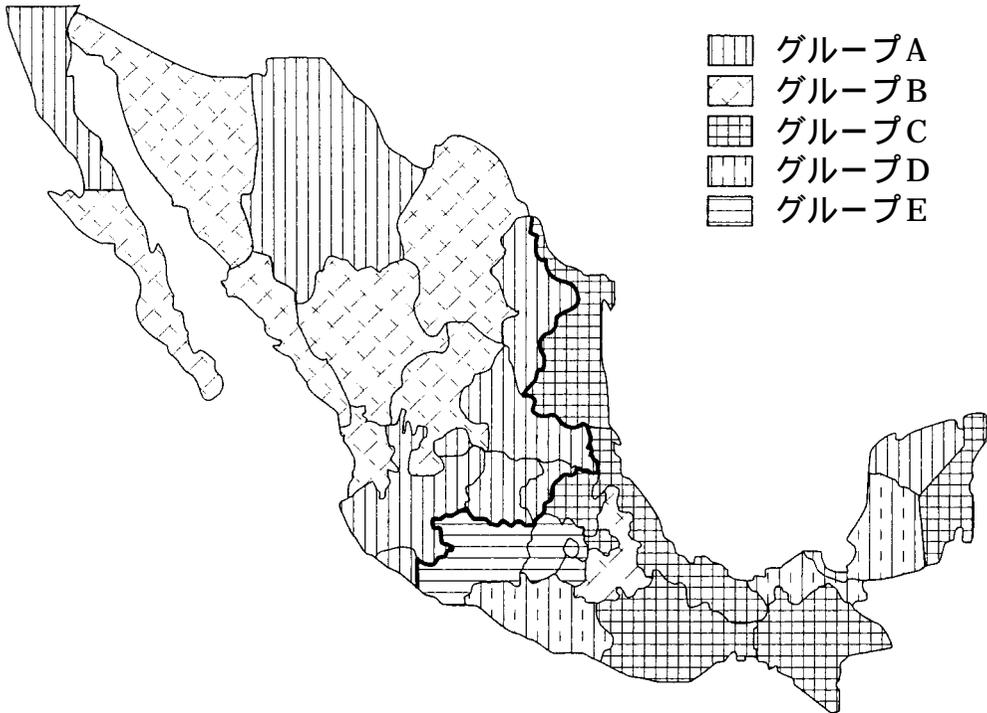
PANの優位, もう一つはPAN傾向をもつPRI優位地域である(グループB)。メキシコ湾-南部傾斜線においては, PRIとPRDが二大政党である州があり, 三つのグループに分類できる。すなわち, PRDの傾向に対してPRIが余裕を持っている地域(グループC), その優位さの余裕が縮小している地域(グループD), 最後は, PRDがPRIに対して優位を持っている地域(グループE)である。これらのグループに属さないのが, プエブラとユカタンである。この地域化された政党のサブシステムの地域性は, メキシコにおける政党間の競争性が示す異質性を浮き彫りにしている⁴¹⁾。

「地方的環境の異なるサブシステムの中に政党制を再分割する切断は, PRIのヘゲモニー終焉の結果である。他方, PAN票とPRD票の分配の地域的そして領域的に集中した性格の結果である。PRIのヘゲモニーの解体は, 地域的・地方的空間を真空にしている。すなわち, PANとPRDが1994～1997年の三年間にその空間を占めた。しかし, 選挙ゲームに浸透する激しい移り気ゆえに, 万華鏡の断片のごとく不安定で過渡的である」⁴²⁾

おわりに

都市における政党制の編成は同質的で安定的であることからほど遠い。このような多様性は, 長期にわたる政治的中央集権制にもかかわらず, 地方的要素が今だ重要な要素であり続けていたことを示している。これまでの選挙上の再編期には, PRIの全国的存在だけが総体としての結合を保証していた。そえゆえ, 現実には, PRIの有権者離れと都市における新しい有権者層の参入の結果として, ヘゲモニー政党制は徐々に解体され, その代わりに, 制度的にも, 政治・社会的にも多様な選挙的現実と結びついた並存状況が現れれていた。それは, 選挙における諸政党への安定的支持パターンの欠如, 都市票と農村票との著しい相違, 様々な州と地方の間での投票の不連続性, 多様で, 浮動的な都市有権者の重要性の増大といった諸要素の存在によって特徴づけられるモザイク状態である⁴³⁾。

こうした並存的なモザイク状況は, メキシコの政治的パノラマを流動的にした。政党制レベルでは, PRIのヘゲモニー崩壊後, 政党間の重層的再編過程が展開している。しかし, 当時はこの過程は頂点には達していなかった。PRIの支持基盤は大きく解体したが, その基盤が再編成される方向は見えていなかった。野党の側ではPRDがその社会的支柱を確立していなかったが, PANはその支持基盤の拡がりをおよそ示しており, 長期的な構造的転換過程から利益



(出所) Pacheco, 2000, p.446.

地図1 サブ政党制(1997年連邦選挙)

を得ていた⁴⁴⁾。

最後に、これまでの選挙過程および政党制再編の検討を踏まえてメキシコにおける民主化の課題と見通しを簡単に触れておきたい。メキシコのような権威主義的国家において、民主化の見通しは、多かれ少なかれ国家内の権威主義的諸潮流間の対立が下からの市民的圧力の成長とどのように相互作用するかに依存している。そして、また、その過程は選挙プロセスと結びついている。さらに、民主的政治体制への移行は全国的規模での単線的、同時並行的な過程ではない。様々な次元と多様な領域での相互作用、前進と後退の漸進的で不均等な過程である。選挙はPRIの傾向的・構造的衰退を現実化し、証明することとなったが、他方で、選挙結果それ自体はPRIの政治的影響力の地域的、領域的な不均等性を示していた。この民主的政治体制への移行過程において、選挙は民主化の重要な凝縮された指標であるが、他の多くの諸要因の一部であった⁴⁵⁾。

優位政党制における移行過程では、地域的分権化が体制転換における重要な構成要素であった。1994年危機以降のメキシコにおける政治変化を特徴づけるものは、集権的階層制の崩壊と

地方権力の地理的分散である。権力エリートは分裂し、支配政党は混乱し、政治的暴力は著しく増大した。セデージョ政権に交替してから、大統領の権威は実質的に低下し、地方権力の一層の拡大に道を開いた。なぜなら、1994～95年、メキシコは中央政府と地方エージェントとの権威主義的で垂直的な結びつきの希薄化、ならびに地域内における地方権力のバランスと水平的な多様化の両方を経験したからである。

メキシコ政治の地方化は、民主的体制の事実上の強化によって曖昧な意味を持っていることにも注意しなければならない。なぜなら、地方カシーケ支配の拡大が法の支配や体制の安定に大きな影響をもたらしている現実が存在しているからである。この意味で、この地方化は中央政府の基本的統合を脅かす一方で、政治的協力とガバナビリティの重要な挑戦をも示している⁴⁶⁾。

< 付記 >

本稿は文部科学省科学研究費（平成11～13年度）基礎研究（C）「サリーナス政権下におけるメキシコの地域社会構造の変容と政党構造の変容」の成果の一部である。

注

- 1) 選挙改革については、Aziz Nassif, Alberto, “La reforma electoral: adecuaciones a una democracia tutelada”, en Alonso, Jorge, Aziz, Alberto y Tamayo, Jaime (coords.), *El Nuevo estado Mexicano: estado y política*, México. D.F., Nueva Imagen. 1992. 参照。
- 2) Pacheco Méndez, Guadalupe, *Caleidoscopio electoral: Elecciones en México, 1979-1997*, México, D.F., Instituto Federal Electoral/Universidad Autónoma Metropolitana/Fondo de Cultura Económica, 2000, pp.255-256.
- 3) 参加と責任を強調した「連帯」の言説は、それまでの政府の農村開発政策（農村開発総合計画PIDERや村落食糧ストアー計画）を発展させた側面もあるが、次の点で大きく違っていた。第一に、選挙の挑戦に直接対応していたこと、第二に「連帯」はサービス供給のために、連邦機関ではなく、自治体そのものに焦点を当てていた。第三にそれは都市貧民に集中し、農村開発からの教訓を利用した。そして、第四に、そのイデオロギー的強調がめだち、国家と社会との間の連携の理念を勧めていた（Fox, Jonathan, “The Difficult Transition from Clientelism to Citizenship”, in *World Politics*, No.2. 1994, p.167.）。
- 4) Gómez Tagle, Silvia, “México en la realidad virtual: las elecciones de 1994”, en Gómez Tagle, Silvia (coord.), *1994: Las elecciones en los estados (vol.1)*, La Jornada Ediciones, 1997, p.14.
- 5) *Ibid.*, p.30.
- 6) メキシコ市のアルバロ・オブレゴン地域でのPRIの勢力回復のケースは、1991年選挙分析に興味深い事例を提供している（Dresser, Denis, “Bringing the Poor Back In: National Solidarity as a Strategy of Regime Legitimation”, in Cornelius, Wayne A., Craig, Ann L., and Fox, Jonathan (eds.), *Transforming State-Society Relations in Mexico: The National Solidarity Strategy*, University of California, San Diego, Center for U.S.-Mexican Studies, 1994).
- 7) Pacheco Méndez, *op.cit.*, pp. 276-277.

- 8) *Ibid.*, pp.278-281.
- 9) *Ibid.*, pp.281-282.
- 10) *Ibid.*, p.282.
- 11) Gómez Tagle, *op.cit.*, p.34.および Castañeda, Jorge G., *La utopía desarmada: intrigas, dilemas y promesa de la izquierda en América Latina*, México.D.F., Editorial Joaquín Mortiz, 1993. p.185 参照。
- 12) Gómez Tagle, *op.cit.*, pp.34-35.
- 13) *Ibid.*, pp.13-14.
- 14) 「社会自由主義」に関する議論とその背景については以下の文献が参考になる。
Centeno, Miguel Ángel, *Democracy Within Reason: Technocratic Revolution in Mexico*, Pennsylvania, The Pennsylvania State University Press, 1994, pp.205-210. Salinas de Gortari, Carlos, *México: Un paso difícil a la modernidad*, México, D.F., Plaza & Janes Editores, 2000, pp.289-321. Soederberg, Suanne, "From Neoliberalism to Social Liberalism: Situating the National Solidarity Program Within Mexican's Passive Revolution", in *Latin American Perspectives*, Vol.28, No.3, 2001.
- 15) Gómez Tagle, *op.cit.*, p46.
- 16) *Ibid.*, p.30.
- 17) 投票の有効性を保証する政治改革
国家の教育独占を打破する教育改革
農地分配を「含み」、土地所有を保証する農業改革
「人間的経済」を確立する経済改革
家族を基礎にした人権と社会権の防衛
家族計画や産児制限に反対する「責任ある自由」に基づく人口政策
法治国家の確立
政治的条件なしに労働権の行使 (*Ibid.*, p.33.)
- 18) 1994年大統領選挙に向けての市民グループの動向とこの選挙の問題点については、次の文献を参照。
La Botz, Dan, *Democracy in Mexico: Peasant Rebellion and Political Reform*, Boston, South End Press, 1995, pp.205-208. Manuel Ramírez S., Juan, "Contribuciones democráticas de 'Alianza Cívica'", en Gutiérrez G., Esthela (coordinación general), *El debate nacional: Los actores sociales*, México D.F., Editorial Diana, 1997. Gómez Tagle, *op.cit.*, pp.36-43.
松浦芳枝〔1995〕「メキシコにおける民主化と市民社会 グルポ・サンナンヘルの試み」(『ラテンアメリカ研究所報(立教大学)』No.24, 1995年)
- 19) Pacheco Méndez, *op.cit.*, p. 308.
- 20) Gómez Tagle, *op.cit.*, p47.
- 21) *Ibid.*, pp.47-48.
- 22) Pacheco Méndez, *op.cit.*, p. 316.
- 23) *Ibid.*
- 24) *Ibid.*, p.323.
- 25) *Ibid.*, pp.325-326. PANの得票が高い州は、北部(バハカルフォルニア, バハカルフォルニア・スール, ソノラ, シナロア, コアウイラ, ヌエボ・レオン), 中央部・西部(コリマ, ハリスコ, アグアスカリエンテス, グアナファト, ケタロ), ユカタンである。これらは、一般に、高い

都市化指数の諸州および比較的伝統的な農村人口の少ない諸州である。他方、PRDの得票の高い州は、ゲレロ、ミチョアカン、タバスコ、カンペチェ、チアパス、D.F.、モレーロス、オアハカ、ベラクルスである（*Ibid.*, pp.305-309の地図 .1,2,3を参照）。

- 26) Gómez Tagle, *op.cit.*, p.52.
- 27) Pacheco Méndez, *op.cit.*, p.364.
- 28) *Ibid.*, p.310.
- 29) Molinar Horcasitas, Juan, *El tiempo de la legitimidad: Elecciones, autoritarismo y democracia en México*, México, D.F., Cal y arena, 1991, pp. 173-174.
- 30) *Ibid.*, pp. 184-185.
- 31) *Ibid.*, p.198.
- 32) *Ibid.*, p.200.
- 33) Pacheco Méndez, *op. cit.*, p. 339.
- 34) パチェコの政党間関係の分類の呼称と内容は次の通りである（*Ibid.*, pp.354-355）
 - “PAN”：PANが得票50%以上を獲得して優位な位置を確保している（5つの事例）
 - “BIP-PAN”：PRIとPANとの2党制であるが、両政党の得票差が10ポイント以下のケース。PRDは考慮すべき範囲外の存在（43の事例）
 - “PLURAL-PRI”：萌芽的多元主義。PRIが得票の50%を越えないが、最も近い政党（PAN）との関係で10ポイント以上の得票差がある。さらに、第3政党（PRD）の得票が20%水準に達していない(70の事例）
 - “PRI-(PAN)”：PRIの明らかな優位があるが、PANが最低20%の得票を獲得しているケース（34の事例）
 - “PRI-(PRD)”：PRIが優位を確保しているが、PRDも20%を越える得票に達しているケース（23の事例）
 - “BIP-PRD”：PRIとPRDとの得票差が10%以下で、PANの得票は20%以下のケース（21の事例）
 - “PRD”：PRDが支配的な政党であって、PRIは副次的な存在であり、PANは弱小政党であるカテゴリー（4の事例）
- 35) *Ibid.*, pp.358-359.
- 36) *Ibid.*, p415.
- 37) *Ibid.*
- 38) *Ibid.*, pp.415-416.
- 39) *Ibid.*, p417.
- 40) *Ibid.*, p434.
- 41) *Ibid.*, pp.442-443.
- 42) *Ibid.*, p445.
- 43) *Ibid.*, p360.
- 44) *Ibid.*, pp.360-361.
- 45) Fox, *op.cit.*
- 46) Kaufman, Robert R. and Trejo, Guillermo, “Regionalism, Regime Transformation, and PRONASOL: The Politics of the National Solidarity Programme in Four Mexican States”, in *Journal of*

Latin American Studies, No.29, 1997.

参考文献

〔外国語文献〕

- Acosta Silva, Adorian [1995] , “Imágenes de un tiempo líquido” ,en *Nexos*, núm., 211, julio.
- Alonso, Jorge, Aziz, Alberto y Tamayo, Jaime (coords.) [1992], *El Nuevo estado Mexicano: . estado y política*, México. D.F., Nueva Imagen.
- Alonso, Jorge, Aziz, Alberto y Tamayo, Jaime (coords.) [1992], *El Nuevo estado Mexicano: . estado y sociedad*, México. D.F., Nueva Imagen.
- Aziz Nassif, Alberto [1992] , “La reforma electoral: adecuaciones a una democracia tutelada” ,en Alonso, Jorge, Aziz, Alberto y Tamayo, Jaime (coords.) [1992] .
- Castañeda, Jorge G. [1993], *La utopía desarmada: intrigas, dilemas y promesa de la izquierda en América Latina*, México. D.F., Editorial Joaquín Mortiz.
- Centeno, Miguel Ángel [1994], *Democracy Within Reason: Technocratic Revolution in Mexico*, Pennsylvania, The Pennsylvania State University Press.
- Cornelius, Wayne A., Eisenstadt, Todd A. & Hindley Jane (eds.) [1999] *Subnational Politics and Democratization in Mexico*, La Jolla, Center for U.S.-Mexican Studies, University of California, San Diego.
- Cornelius, Wayne A., Craig, Ann L., and Fox, Jonathan (eds.) [1994], *Transforming State-Society Relations in Mexico: The National Solidarity Strategy*, University of California, San Diego, Center for U.S.-Mexican Studies.
- Dresser, Denise [1994] , “Bringing the Poor Back In: National Solidarity as a Strategy of Regime Legitimation”, in Cornelius, Wayne A., Craig, Ann L., and Fox, Jonathan (eds.) [1994] .
- Espinosa, Eduardo Torrs [1999], *Bureaucracy and Politics in Mexico: The Case of the Secretariat of Programming and Budget*, Brookfield, Ashgate.
- Flores Olea, Víctor [1994], *La espiral sin fin*, Editorial Joaquín Mortiz.
- Fonseca Villa, Jose J., et.al. [1987], *Corriente Democrática: Alternativa frente la Crisis*, México. D.F., Costa-Amic Editores.
- Fox, Jonathan [1994], “The Difficult Transition from Clientelism to Citizenship”, in *World Politics*, No.2.
- Fox, Jonathan and Moguel, Julio [1995], “Pluralism and Anti-Poverty Policy: Mexico’s National Solidarity Program and Left Opposition Municipal Government”, in Rodriguez, Victoria E. and Ward Peter M. (eds.) [1995]
- Gómez Tagle, Silvia (coord.) [1997], *1994: Las elecciones en los estados (vol.1)*, La Jornada Ediciones.
- Gómez Tagle, Silvia [1997], “México en la realidad virtual: las elecciones de 1994”, en Gómez Tagle, Silvia (coord.) [1997]
- Handelman, Howard [1997], *Mexican Politics: The Dynamics of Change*, New York, St. Martin’s Press.
- Horcasitas, Juan Molinar and Weldom, Jeffrey A. [1994], “Electoral Determinants and Consequences of National Solidarity”, in Cornelius, Wayne A., Craig, Ann L., and Fox, Jonathan (eds.) [1994] .
- Instituto Federal Electoral [1994], *Código federal de instituciones y procedimientos electorales*, México, D.F., Secretaria General Direccion del Secretariado.

- Institute Nacional de Estadística, Geografía e Informática (INEGI) [1997], *Indicadores sobre las Características del Empleo Urbano, 1987-1996*, México, D.F., INEGI.
- Kaufman, Robert R. and Trejo, Guillermo [1997], "Regionalism, Regime Transformation, and PRONASOL: The Politics of the National Solidarity Programme in Four Mexican States", in *Journal of Latin American Studies*, No.29.
- La Botz, Dan [1995], *Democracy in Mexico: Peasant Rebellion and Political Reform*, Boston, South End Press.
- Lorena C. Maria, Middlebrook, Kevin J. and Molinar H. Juan (eds.) [1994], *The Politics of Economic Restructuring: State-Society Relations and Regime Change in Mexico*, University of California, San Diego, Center for U.S.-Mexican Studies.
- Manuel Ramirez S., Juan [1997], "Contribuciones democráticas de 'Alianza Cívica' ", en Gutiérrez G., Esthela (coordinación general) [1997], *El debate nacional: Los actores sociales*, México D.F., Editorial Diana.
- Menocal, Alina Rocha [1998], "The Myth of the Infallible Technocrat: Policy-Making in Mexico Under the Salinas Administration", in *Journal of Public and International Affairs*, Vol.9, Spring.
- Middlebrook, Kevin J. [1988], "Dilemmas of Change in Mexican Politics" ,in *World Politics*, No.1. [1989], "The Sounds of Silence: Organised Labour's Response to Economic Crisis in Mexico", in *Journal of Latin American Studies*, Vol.21.
- Molinar Horcasitas, Juan [1991] *El tiempo de la legitimidad: Elecciones, autoritarismo y democracia en México*, México, D.F., Cal y arena.
- Nuncio, Abraham (coord.) [1987], *La sucesión presidencial en 1988*, México, D.F., Editorial Grijalbo.
- Pacheco Méndez, Guadalupe [2000] *Caleidoscopio electoral: Elecciones en México, 1979-1997*, México, D.F., Instituto Federal Electoral/Universidad Autónoma Metropolitana/Fondo de Cultura Económica.
- Peter M. Ward [1993], "Social Welfare Policy and Political Opening in Mexico", in *Journal of Latin American Studies*, no.25.
- Quezada, Sergio Aguayo, ed. [2000], *El Almanaque Mexicano*, México, D.F., Editorial Grijalbo.
- Reynolds, Clark W. [1993], "Poder, valor y distribución en el Tratado de Libre Comercio de América del Norte", en Roett, Riordan (compilador) [1993]
- Roett, Riordan (compilador) [1993], *La liberalización económica y política de México*, México, D.F., Siglo Veintiuno Editores.
- Rodriguez, Victoria E. and Ward Peter M. (eds.) [1995], *Opposition and Government in Mexico*, University of New Mexico Press.
- Purcell, Susan Kaufman and Rubio, Luis (eds.) [1998], *Mexico Under Zedillo*, Boulder and London, Lynne Rienner Publishers.
- Salazar, Luis (coord.) [1999], *1997: Elecciones y transición a la democracia en México*, México, D.F., Cal y arena.
- Salinas de Gortari, Carlos [2000], *México: Un paso difícil a la modernidad*, México, D.F., Plaza & Janes Editores.
- Soederberg, Suanne [2001], "From Neoliberalism to Social Liberalism: Situating the National Solidarity

- Program Within Mexican's Passive Revolution", in *Latin American Perspectives*, Vol.28, No.3.
- Trejo, Guillermo and Jones Claudio [1998], "Political Dilemmas of Welfare Reform: Poverty and Inequality in Mexico", in Purcell, Susan Kaufman and Rubio, Luis (eds.) [1998].
- Sartori, Giovanni [1976], *Parties and Party Systems: A framework for analysis*, Cambridge University Press (岡沢憲英・川野秀之訳『現代政党学()』早稲田大学出版部, 1980年)
- Sirvent, Carlos (coordinador) [2001] *Alternancia y distribución del voto en México*, México, D.F., Ediciones Gernika.
- Whitehead, Laurence [1994], "Las peculiaridad de una 'transición' a la mexicana" en *Este país*, núm., 40, julio.

〔日本語文献〕

- 松浦芳枝 [1995] 「メキシコにおける民主化と市民社会 グルボ・サンナンヘルの試み」(『ラテンアメリカ研究所報(立教大学)』No.24)
- 松下 冽 [1985] 「転換期のメキシコ 1970年代のメキシコ社会の変容と国家」(『月刊アジア・アフリカ研究』295-296号)
- [1993] 『現代ラテンアメリカの政治と社会』日本経済評論社
- [1996] 「90年代メキシコの政治研究動向(1) 現代メキシコの体制移行に関する議論」(『アジア・アフリカ研究』340号)
- [1997] 「メキシコ官僚制試論 メキシコの社会変動とテクノクラート」(『政経論叢』第65巻5・6号)
- [2001a] 「グローバリゼーションとメキシコ権力構造の再編 官僚機構のテクノクラート化をめぐって」(『政策科学』8巻3号)
- [2001b] 「メキシコにおける公共空間の創出と新しい社会運動 1985～1995年を中心にして」(『人文科学研究所紀要』77号)
- [2001c] 「メキシコにおけるネオリベリズムと市民社会の交差 全国連帯計画(PRONASOL)をめぐって」(『立命館国際研究』14巻2号)

The Electoral Process and the Transformation of the Party System in Contemporary Mexico

Mexico's long-ruling party, PRI, has been rightly characterised by having a vertical structure of command and control, an inclusionary corporatist party system and strong presidentialism. So this party dominated the electoral arena at all levels of government and had ruled unchallenged for more than sixty years until 1988.

In the 1980's, as a wave of democratization swept much of the world, Mexico nearly experienced the end of one of the oldest and most stable authoritarian regimes. The onset of economic crisis coincided with and, in part, led to the emergence a new governing elite of young technocrats, the independent mobilization of a new business class finding political expression in the Partido de Accion Nacional (PAN), the growth of grassroots popular movements and the unification of the Left around the presidential candidacy in 1988 of Cuauthemoc Cardenas. All these developments implied a serious erosion of corporatist ties between state and society which had underpinned Mexican stability since the 1930's. They also paved the way for transition to a new party system and political system.

PRI lost the presidential elections of July 2000. Yet even before that election defeat, its dominance had been weakened by electoral competition, which in turn had changed the internal dynamics of the party. Therefore, to understand the Mexican transition to democracy it is imperative to study how electoral competition, principally from the centre-left party, the Democratic Revolution (PRD) and PAN affected the internal relations of power within PRI.

This article examines the evolutionary changes in Mexico's former hegemonic party system between 1988 and 1997. The focus is on how this hegemonic one-party system was transformed into the multiparty system in the context of an increasing electoral competitiveness and democratic transition. I would therefore like to focus on five main points of argument on Mexican political transformation which form the basis of discussion in this article; the corporatist mobilization system in election campaign; the 1988 presidential elections; the 1991 mid-term elections; the 1994 presidential elections; and the party system change from the hegemonic party system to the multiparty system.

(MATSUSHITA, Kiyoshi 本学部教授)